

2017-B

VI107B

拠出金・基金
の名称

国境なき医師団拠出金

種 別

イヤマークのみ 一部イヤマーク

【拠出先の国際機関名】国境なき医師団

【所管官庁担当局課・室名】国際協力局国際保健政策室，国別開発協力第二課

【当該任意拠出金の目的・用途等】

拠出金を活用し，国境なき医師団(MSF)はパレスチナ，ガザ地区において，熱傷・外傷患者に対し包括的な医療を提供する。熱傷・外傷患者は継続治療，理学療法・作業療法を受ける。さらに，同地区において日常生活における熱傷(やけど)の危険性に関して啓発活動を行う。また，バングラデシュ国内のミャンマーからの避難民が流入する地域において，基礎的医療，入院治療，救急医療サービスの提供や感染症の監視と拡大予防のための活動を行う。

【最近3年間の我が国支払額及びODA率】

単 位	邦 貨 (千 円)	外貨1 (千米ドル)	外貨2 (千)	レ ー ト	ODA率(%)
平成29年度	155,000	1,409		1米ドル=110円	100
平成28年度		0	0	1米ドル=120円	
平成27年度	110,000	1,000		1米ドル= 110円	100

【当該任意拠出金等の意義，成果等に関する我が国としての評価】

- MSFはこれまでも紛争地等，政府や国際機関の支援が届きづらい地域において迅速且つ積極的に医療・人道支援を行っている。
- 中東パレスチナのガザ地区では，3月の「帰還の大作戦」以降，イスラエル軍に銃撃された患者が急増。ガザ保健省によると2018年3月30日から10月31日の間の負傷者は5,866人に上る。MSFはそのうち3,117人を治療。緊急時には活動規模を3倍にに対応。現在は4つの術後治療を行うクリニックを運営し，理学療法・作業療法を含め継続治療を提供している。3月の「帰還の大作戦」以降の銃撃患者の増加により，新規患者数，継続治療患者，理学療法・作業療法患者数は昨年の倍以上となっている。2018年3月以降，10人の日本人(外科医，看護師，アドミニストレーター等)がパレスチナ，ガザ地区の活動に従事。MSFは人道支援における中立性，独立性，公平性に鑑み，現在，政府資金についてはスイス，カナダ，日本の3ヶ国からの資金のみ活用している。パレスチナの活動に活用している政府資金は日本からの資金のみである。
- MSFはバングラデシュ国内のミャンマーからの避難民が流入する地域において，避難民の死亡率及び罹患率の減少を目的として，基礎的医療，入院治療，救急医療サービスの提供や感染症の監視と拡大予防のための活動を実施。現地ニーズは高く，MSFは外来患者数214,025名，入院患者数3315名を扱った実績を有する。バングラデシュでは2017年8月25日～2018年12月4日の間，23人の日本人(医師，看護師，アドミニストレーター等)が救援活動に従事。

【備考】